

浦和区の将来像の推進に係る懇話会 会議録

日時	平成 29 年 7 月 26 日 (水) 10:00~11:50
場所	浦和区役所第 1 会議室
参加者 ※敬称略	〔委員〕 計 15 名 (欠席者なし) 丸山繁子／守富亜紀子／渡邊廣次／後藤勉／菊地順子 服部史代／荒川新治／大森好治／日榮貴子／畑中隆一 染谷典子／松谷一正／羽部隆／鷲見優子／藤枝陽子 〔事務局：さいたま市〕 計 8 名 浦和区役所：四方田区長／山岸副区長／星野区民生活部長 阿部健康福祉部長／安部総務課長／遠藤総務課長補佐 都市経営戦略部：田中副参事／新井主査 〔傍聴者〕 なし
議題及び 公開又は 非公開の 別	1 開会 2 挨拶 3 出席者紹介 4 座長の選出 5 浦和区の将来像の推進について 6 閉会 [公開]
配付資料	・ 次第 ・ 委員名簿 ・ 席次 ・ 浦和区の将来像の推進に係る懇話会設置要綱 ・ 浦和区の将来像の推進に係る懇話会傍聴要領 ・ 資料 1 浦和区の将来像 ・ 資料 2 浦和区の将来像の実現に向けたこれまでの取組及び市民意見
問合せ先	浦和区役所区民生活部総務課 電話 048-829-6015

1 開会

2 挨拶

区長及び都市経営戦略部副参事より、挨拶があった。

3 出席者紹介

委員及び事務局の紹介があった。

#### 4 座長の選出

委員の互選により、藤枝委員を選出した。

#### 5 浦和区の将来像の推進について

各委員より、浦和区の将来像にあるまちづくりのポイントに関連した感想を述べた。

##### 【以下、感想の要約】

##### ①世代や文化、地域を超えた多様な交流のあるコミュニティづくり

###### □公民館をコミュニティ形成の拠点に

- ・近所に顔見知りが少なくなり、一人暮らしの高齢者が増えた。見守りや居場所づくりの確保が悩みである。寺も檀家があるので自由には使えず、学校も使いにくい。公民館がベストだと思うので活用したいが、サークル活動などで地元以外の人利用も多い。地元用の部屋やサロンがあると良い。
- ・公民館は地域の活動の場であるが、さいたま市になってから、地域の人が使いにくくなっている。地元の自治会館や常盤公民館は北浦和に近いが、労働会館も閉鎖されたため、利用者が流れてきている。

##### ②文教都市などの「浦和ブランド」を活用した魅力あるまちづくり

###### □子ども・学校・学力形成

- ・浦和は学力が高いと全国的に周知されているようで、他県から埼玉県への転入者は、大宮や横浜に行きやすい浦和を選ぶらしい。しかし、全員の学力が高い訳ではなく、比較的多いということだ。これはうれしいことだが、学力の高くない子を伸ばす受け皿も欲しい。ほとんどの子が塾に行っており、昔はレベルが高い学校の補習目的だったが、今は更に高いレベルを目指している。浦和高校や浦和第一女子高校は「近くて遠い高校」と言われている。
- ・チャレンジスクールなどあるが、部活があって参加できない。
- ・「未来くるワーク体験」は評判が良い。地域に携われる場にもなっている。
- ・勉強以外にスポーツを目指す子への補助や支援もほしい。やる気のある子を支援したい。
- ・中学校での職業体験は貴重で、気づかない自分の長所に気づける。
- ・140年続く木崎小学校でも、土曜チャレンジスクールを実施している。地域の人口が増えてきていて、仲町小は教室が足りず、いったん帰宅してから再度登校しているようだ。交通安全などが心配で、名札やカードへの親のサインなど、安全管理を徹底している。
- ・美園小も児童が急増し、新設計画に伴い途中で転校する、しないで問題になったが、結局、個々人の選択に任されることになった。
- ・公民館の和式トイレを使えない子どもが多いので、施設改修を望む。

## □ブランドや住みやすさと、多い住民の流出入

- ・常盤小中学区は学区自由化で与野から殺到するようになり、流出元の過疎校問題が生じている。地域はマンションだらけで、分譲を賃貸にしているところもある。
- ・所属団体の大会を主催するのに地域の魅力を調査したことがあるが、浦和は「スポーツのまち」「学力のまち」だけしか意識されていない。うなぎなどの魅力が知られていない。住みやすさが転出入の多さにつながっていることも原因で、地元の文化を知らないまま転出してしまふ。ベッドタウン的な位置づけで、文化の継承が出来ない。調神社まで海があったことなどの歴史を知ったり、住んでいる間だけでも郷土愛を育んでほしい。郷土愛を育む教育に取り組むべきである。
- ・子どもが中学進学時に浦和に家を買う人が多かった。もっと魅力があれば学力だけでなく、将来的なことを考えて住み続ける人が増えると思う。特定の学校だけでなく、バランスが大切である。
- ・浦和区は新住民も多く、まちの歴史を知らない。サッカー、教育、うなぎなどの浦和ブランドを伝えていくことが大切と考えている。東西連携、まちなかでの発信場所を作りたい。

## □サッカーを通したまちづくり

- ・区役所でもレッズを応援してもらっている。浦和の魅力はブランド力である。レッズのこれまでの実績は地域の応援のお陰である。まちづくりと一緒にできることを考え、サッカーの歴史の紹介、ネーミングライツの利益を少年サッカーの支援に使うなど、地域の話題になるように考えてきた。試合の開催だけだと地域との接点が少なくなり、試合会場が遠くなるとそのコミュニケーションが少なくなる。ホームタウン普及部では、まちのイベントにも積極的に参加しようとしている。

## □うなぎのまち

- ・旧浦和市はうなぎの専門店がたくさんあったが、減ってきた。どうしてうなぎのまちなかかと思っている人もいるかも知れない。うなぎのPRは全国展開している。浜松からの視察応援も来た。

## ③東西が連携し、一体性と「にぎわい」のあるまちづくり

### □浦和駅の東西交通、駅前広場

- ・中ノ島地下通路の整備で、駅全体も試合に行くのも便利になった。通路などに地域の魅力を発信するしくみができるの良い。にぎわいづくりで、来訪者にも浦和の魅力を知ってもらえる。中ノ島をもっと活用すべきである。
- ・34年間、鉄道の音を聞きながら育ったが、市の支援によるコルソの開業や東西の一体化が進んだ。
- ・中川元市長の回顧録では、地下道を駅構内に設置しようと思っていたらしい。段差があることは意識していた。当時の国鉄は前向きではなかったらしいが、民営化されたJRとは上手に連携していけるのではないかと思う。

- ・中央線はいち早く高架化したが、京浜東北線は遅れた。議員 16 名の署名で平成 23 年 3 月に請願が通り、実現の見込みとなった。
- ・東口のバス乗り場が広がったが、中ノ島に止まるバスが激減した。東口のバスが西口に入ってきたのは、合理的ではないと思う。
- ・新しい地下通路ができることで、より便利になる。PR やにぎわいづくりができると思う。
- ・東口関係者は、構内にあるとの理由で、通路には防犯カメラを付けない方針らしいが、途中で曲がり角があるなど防犯上不安である。
- ・市の事業なのに、既設部分が南部建設事務所、新設部分が浦和駅周辺まちづくり事務所で分かりづらい。
- ・伊勢丹への地下道はバリアフリーにして自走式の車いすが通れるようにしないと、新しい地下通路の意味がない。
- ・イトーヨーカドー近くに最初の地下道計画があったが、何か理由があってできないのかも知れない。

#### ④ひとにやさしい誰もが安心して暮らせるまちづくり

##### □防災

- ・駅前地下通路の天井のガラスの間接照明は地震の際に危ない。傾斜路のところだけ取り換えるとのことだが、何かあったら通路全体が通れなくなる。帰宅困難者の避難場所になる可能性もある。役所内の連携がないので全体的な検証ができていない。生活の基本にかかわることにも予算を使ってほしい。
- ・防災についてあまり記述がない。大震災では駅前がいっぱいだったので、高砂小や浦和第一女子高校へ案内した。鉄道利用客は JR が面倒をみるべきで、地元の発展につながる開発をするといっているのだから、役所から JR への働きかけがもっと必要である。JR との協力がなくして浦和のまちづくりはない。駅などの現場関係者は良くなったが、支社などの考え方は変わらない。
- ・コルソは耐震工事で震度 7 まで対応しているらしいが、大地震が 30 年以内に 70% の確率と言われており、心配な建物は多い。岸町や常盤には数万人が住んでいる。どこへ逃げれば良いのか心配である。
- ・コルソや伊勢丹は、避難者への食糧提供も想定している。浦和で最も頑丈な建造物は浦和駅らしい。JR も受け入れ態勢をしっかりとしてほしい。安易に帰宅困難者を学校に案内しない方がよい。
- ・利用者の多い商業施設、交通機関は行政と協定を結んで、防災に備えてほしい。
- ・災害に強いのは事実なので、PR していけば良い。
- ・防災はすべての団体に関わってくる。こうしたいということを行政が発信することで加速すると思う。

##### □防犯

- ・育成会では学校と連携してパトロールをしている。大東保育園ができてガードマンを配置

したので、露出狂が大東公民館の方へ移ったようだ。パトロールの必要性がある。

#### □自治会活動など

- ・行政の力のほかに、自治会の活動が大切だが、加入者減をなんとかしていきたい。
- ・市が自治会活動を支援することが大切である。人口が増えているのだから、国勢調査などに行政のスタッフも増やしてほしい。

→【事務局】職員も、自宅に帰れば地元の自治会活動などに参加している。また、国勢調査に関しては、書類のチェックなど指導員としての役割で携わっている。

#### □高齢化

- ・老人クラブと民生委員が連携して活動をしている。高齢者が多くなった。
- ・3年に1回の高齢者実態調査を行っているが、なかなか対応してくれない人が多い。65歳という設定がいけないのかも知れないが、見守りを続けていきたい。
- ・2025年に人口は頭打ちだが、高齢化は急激と言われている。そのときに向けて何をするのか知らない人も多い。行政が発信する必要がある。
- ・自助、共助と言うが、高齢になると動けない。

#### □交通安全

- ・自転車レーンの整備が進んできたが、途中で切れているところがある。
- ・荷下ろしの駐車が長く、待機場所の工夫や台車方式にしてもらうなどを考えてほしい。
- ・若い人やママのマナーが良くなく、どこでも問題になっている。啓発が必要である。
- ・ゾーン30は大切なので、ぜひ進めてほしい。2か所では少なく、費用はかからないと思うので進めてほしい。

### ⑤緑豊かな美しい街並みとゆとりある住環境を創出するまちづくり

#### □街並み

- ・桜並木日本一を目指しているが、見沼だけでなく市内各地で進めれば良いと思う。

#### □新住民と住環境

- ・常盤や高砂地区ではマンションが急増し、マンション規制の要望が出ている。乱立することで、最初に入居した人の住環境が悪くなっている。
- ・若い人が増えるのは良いが、マンションと戸建ての住民の関係性が問題になっている。地主が土地を手放すと、マンションがどんどん建設され売れる。人口が増えるのはうれしいが、コミュニティはなくなる。不動産事業者として考えてもらうことがあると思う。
- ・常盤1丁目の市役所通りに面している地区では、マンションが林立しており、まだまだ建つと思う。地域で協定を結ばないと規制できないと思うので、地域の意見をまとめるための話し合いが必要である。
- ・建築は違反でなければ、建築許可が出る。戸建て1軒分の土地に新たに3軒が建ったり、3

階建てになったりして、日照や景観で近隣問題が生じる。ごみも含め生活上の苦情が多くなる。転入者が前に住んでいたところとのルールの違いでもめる。行政の指針がほしい。

- ・ 10 年くらい前に既に集合住宅世帯の方が多いと聞いた。半分程度しか自治会に加入しておらず、誰が住んでいるか分からないなど、自治会関係者は大変である。
- ・ オートロックや表札もない住宅など、世帯訪問が難しくなっている。集合住宅で 1 軒訪問したついでに他の世帯を訪問しようとしたら怒られた。国勢調査どころではない。5 年後の調査はもっと難しくなると思う。
- ・ 地元の地区では 300 世帯で戸建ては 10%ほどしかない。調査などは、遠方の人より向こう 3 軒両隣の人が担当するのが効果的だと思う。

## 6 閉会

以 上